

(報告様式第3号)

改善計画書

事業者名 (社会福祉法人つくしんぼ福祉会 つくしんぼ児童クラブ)

(2026年 2月 10日 作成)

改善に向けた事業者のコメント	本評価を通じて、当施設が直面している課題を「組織体制」「人材育成」「サービス環境」の3軸で再認識しました。 特にパート職員を含めた理念の共有と、客観的な数値に基づく運営管理が急務であると考えています。短期的には既存マニュアルの徹底と周知体制の整備を行い、中長期的には職員が誇りを持って長く働ける環境と、子ども一人ひとりのニーズに寄り添った専門性の高い支援体制を構築します。 全職員が一丸となり、地域に信頼される質の高い放課後児童クラブを目指します。							
短中長期	No	課題・改善点	達成目標	期間	開始時期	達成時期	具体的改善策 (人・予算・情報・手順等)	担当
短期間で出来ること	1	組織運営と情報共有の強化	理念の浸透とパート職員の参画意欲向上、及び情報公開体制の確立	6か月	2026年4月	2026年9月	①全体勉強会の重要性を個別面談等で丁寧に説明し、役割への意識付けを行う。また、事例検討など現場業務に直結した内容へ工夫し、パート職員の主体的参加を促す。 ②次年度事業計画において、研修会実施回数や参加率などの「数値指標」を導入し、活動成果を客観的に測定・分析できる体制を整える。 ③予算執行一覧表への閲覧確認(サイン等)を徹底し、周知状況を可視化する。 ④ホームページ更新担当を選任し、月1回の定期更新をルール化。並行して来年4月のリニューアルに向け、保護者や入所希望者が必要とする情報を整理し、施設の魅力をより正確に伝えるための掲載内容の全面的な見直しを行う。	園長 主任
	2	人材育成体制の整備と支援業務の標準化	標準手順の徹底による支援の質の均一化、および育成体制の確立	6か月	2026年4月	2026年9月	①「基本手順書」を全職員に再配布し、会議等での読み合わせを通じて、手順に基づく支援を徹底する。 ②職員間で記述水準に差異が生じないように、記録要領の整備および事例を用いた内部研修を実施し、客観的な記録体制を整える。 ③事業所独自の「実習生受け入れプログラム」および「対応手順書」を策定し、統一した指導・育成体制を整備する。	主任 リーダー

	3	リスクマネジメントの強化と外部連携の再構築	実効性の高い安全管理体制の確立、および保護者が主体的に参加できる環境の構築	12 か月	2026年4月	2027年3月	①危機管理コンサルタントによる安全点検を実施し、既存のチェックリストや安全基準を実効性の高い内容へ改訂。職員の危機管理意識を底上げする。 ②気になる子どもの様子や緊急時の対応について、学校側と定期的に情報交換を行う場を持ち、相互理解に基づいた一貫性のある支援体制を構築する。 ③家庭教育学級やワークショップなど、保護者が学びや交流を得られる場を年1回以上企画し、協力関係を深化させる。	園長 管理職
中・長期間でできること	1	経営基盤の安定化と採用・定着戦略の抜本的見直し	外部依存からの脱却による安定的採用と、長期勤続を支える人事評価体制の確立	3年間	2026年4月	2029年3月	①外部紹介会社への依存度を低減するため、リニューアル後のホームページやSNS、地域媒体を活用し、自園直接応募による採用ルートを確立する。 ②常勤職員で運用中の制度をベースに、勤務形態や職務範囲に応じた「パート職員専用のキャリアパス指標」を新たに整備する。 ③蓄積した利用希望者データや地域ニーズを多角的に分析し、次期中長期計画へ反映。将来的な待機児童対策や事業拡張の指針とする。	理事長 園長
	2	職員一人ひとりが『やりがい』を持って、もっと活躍できる仕組みづくり	全職員の専門性向上と組織マネジメントの定着	2年間	2026年4月	2028年3月	①パート職員向け目標管理制度の簡素化を適用。個々の習熟度に応じた面談とフィードバックを実施する。 ②管理職・リーダー会議を定例化し、決定事項の現場反映と、現場の課題吸い上げを円滑に行うマネジメントサイクルを確立する。	主任 管理職
	3	環境整備と「振り返り」による支援の質向上	子どもが落ち着ける環境づくりと、現場の意見を活かす仕組みの定着	3年間	2026年4月	2029年3月	①家具の配置やパーティションの活用により、子どもが落ち着ける「くつろぎコーナー（クールダウンスペース）」を常設化する。 ②障害のある子どもへの支援技術向上を目的とした外部研修への参加を促進。個々の状況に合わせた備品・設備の充実を図る。 ③施設内の点検に加え、地域における子どもの行動範囲や危険箇所を再確認し、「安全マップ」の更新や登下校ルートの指導を徹底する。 ④既存の運用ルールに基づき、自己評価結果から導き出された改善事項を「重点実施項目」として年度計画に明記する。	園長 主任

							また、定期的な会議で進捗を振り返り、未実施事項がないか確認する体制を整え、ルールの実効性を高める。	
今後検討すること	1	地域多世代交流	地域連携の再構築と多世代交流行事の復活	検討中	2026年4月	未定	コロナ禍で中止していた高齢者施設等との交流を再開。まずは作品掲示や手紙交換等の「非接触型交流」から着手し、段階的に対面行事への移行を企画・実施する。	園長 行事担当